

出張講義

サウンド

音声認識の仕組み～コンピュータはどうやって「雨」と「飴」を聞き分けているの？～

担当教員:山田 篤 教授

テキストを入力しなくても、スマートフォンやスマートスピーカーに話しかけると自動的に検索をしたり、家電を動かしてくれたりするようになってきています。一方で、日本語には「雨」と「飴」のように同じ発音で異なる意味を持ついわゆる同音異義語がたくさんあります。コンピュータはこれらをどうやって区別しているのでしょうか。日本語は基本的に高低アクセントであり、人間が発音するとき、「飴」と「雨」ではアクセントが異なります。この情報を使えば区別できるようになるのでしょうか。しかし、困ったことに、たとえば東京の人と関西の人とではこのアクセントが異なりますし、更には関西地方でも大阪の人と丹波の人とでは異なる場合があります。でも、住む地域毎にアプリの設定を変えるなどといった話は聞いたことがないと思います。この授業ではこれらの疑問について考えながら、一般的な音声認識の仕組みを解き明かしていきます。

- 受講人数の目安:5～40人
- 所要時間の目安:50分
- 高校でご準備いただきたいもの:プロジェクト